

1. 評価報告概要表

作成日 平成22年 5月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1092600020
法人名	医療法人社団高仁会
事業所名	みんなの家 なかんじょ
所在地	吾妻郡中之条町中之条967 (電話) 0279-75-4165

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年4月14日

【情報提供票より】(平成22年 3月 23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算	13.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3階建ての	2階 ~	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	39,000 円(30日計算)			その他の経費(月額)	
敷金	有 100,000円				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	円	

(4) 利用者の概要(3月23日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.8歳	最低	76歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吾妻脳神経外科循環器科・原町赤十字病院・川越歯科クリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員は理念を共有し、理念にある「その人の出来る場の提供」の実践に向け、家庭菜園の栽培管理や収穫、食事の準備や後片付け・居室やホールの掃除等の家事全般などその人の出来る場を提供している。また、「その人の思いを大切にしたい」支援のため、1対1での温泉入浴や買い物、夕食後や夜間の入浴を支援している。さらに、理念にある医療機関及び地域社会との交流実現のため、事業所設置主体である医療法人の作業療法士や理学療法士・言語聴覚士等と連携し、「自宅でできる作業療法」等地域の人達を対象とした「みんなの介護教室」を定期的に開催し、介護する家族の肉体的・精神的軽減を図り、情報交換等を行っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題である「地域とのつきあい」「家族等への報告」「現状に即した介護計画の見直し」「日常的な外出支援」「災害対策」について月例会議で話し合い、改善に向け取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	白紙の自己評価シートを全職員に配り、それぞれの視点に基づき記入したものを管理者がまとめている。自己評価中に気づいた「口腔ケアのあり方」について話し合い、統一した支援を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成21年度は運営推進会議を3回開催し、活動状況や介護教室開催等の報告、外部評価コピーの配布、意見交換を行っている。今後は運営推進会議を2ヶ月に1回以上開催すると共に、そこでの意見をサービスの質の向上に活かされるよう期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に生活状況等を報告すると共に、「みんなの家なかんじょ便り」で行事開催状況等を掲載している。また、行事写真や診療状況・入居者の暮らしぶり等を記載した家族宛文書を利用料請求書に同封し、報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は町の中心部に位置し、祭りの神輿が玄関先を訪れたり、入居者は散歩の途中で商店街の人々と会話をしたり、季節毎に開かれる初市や暮市等を見物して買い物を楽しんでいる。また、3ヶ月毎に地域の人達を対象とした介護教室を開催すると共に、保育園児とクリスマスを祝ったり、園児が肩揉みをしてくれたり、町内の人達がボランティアで訪問するなど、地域との交流を大切にしたい事業所運営に努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人の思いを大切にしその人らしく生きる姿を支え続けます、その人の出来ることに着目し活動の場を提供します、医療機関との連携を図り健康管理に十分配慮します、地域社会の中での交流を大切にします」という理念を掲げ支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	名刺大のカードに印刷された理念を全職員が携帯し、支援方法に迷った時に理念を見直すよう管理者は指導している。また、「気づきシート」に記録された課題について、理念に沿った支援が行われているかを月例会議で話し合っている。		
2. 地域との支え					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は町の中心部に位置し、祭りの神輿が玄関先を訪れたり、散歩の途中で商店街の人々と会話を楽しんだり、季節毎に開かれる初市や暮市等を見物して買い物を楽しんでいる。また、3ヶ月毎に地域の人達を対象とした介護教室を開催すると共に、保育園児とクリスマスを祝ったり、園児が肩揉みをしてくれたり、町内の大正琴ボランティアが訪問するなど、地域との交流を大切に事業所運営に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	白紙の自己評価シートを全職員に配り、それぞれの視点に基づき記入したものを管理者がまとめ、自己評価を通して統一した口腔ケアのあり方について話し合っている。前回外部評価の改善課題を月例会議で話し合い、改善に向けと取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成21年度は運営推進会議を3回開催し、活動状況や介護教室の開催状況等を報告し、外部評価のコピーを配布し、意見交換を行っている。	○	運営推進会議を2ヶ月に1回以上開催し、そこでの意見をサービスの質の向上に活かされるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町が主催する研修会や地域包括支援センターが毎月開催する情報交換会或いは年8回開催される「認知症を抱える家族の集い」に出席し、情報交換等を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に生活状況等を報告すると共に、「みんなの家なかんじょ便り」に行事開催状況等を掲載して発行している他、利用料請求書に行事写真や診療状況等を記した家族宛文書を同封している。金銭管理は預り金処理を行い、出納帳のコピーに領収書を添え入金依頼時に精算している。「みんなの家なかんじょ便り」には、全職員の顔写真と紹介文を掲載し家族に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を備え、重要事項説明書に苦情や相談の外部窓口を記載し契約時に説明すると共に、運営推進会議で意見交換を行い家族の要望等を聞くよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は、最小限に抑えている。3階ユニットの入居者が2階ユニットのベランダで洗濯物を干したり等の非常的な行き来があり、また、バーベキューや流しそうめん等の合同行事を行ったりして、ユニット間の職員の異動に伴うダメージを与えないよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の主催する基礎研修には全職員が対象に受講し、実践者研修には中堅職員以上を対象に受講し、報告書を作成のうえ伝達講習会で発表している。また、「認知症の症状とケア」等について法人内で勉強会を開催し、職員の資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、大会の事例発表を聴取したり、支部主催の「リーダー研修」に参加している。また、「認知症を抱える家族の集い」に参加して、同業者や家族と情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所見学を行うと共に、入居前に各ユニットリーダーが自宅や入院先を訪問し生活歴や趣味等を調査して、入居後に安心して円滑な生活が送れるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	裁縫の玉結びや調理を教えてもらったり、居室や廊下の掃除・家庭菜園の栽培管理・食材の買い物を一緒にしたりして、「その人の出来ることに着目し活動の場を提供する」という理念に添った支援を行い、本人と共に過ごし支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の困難な人の意向の把握は、行動や雰囲気から推量すると共に、「気づきシート」に基づいて検討したり、家族からの情報収集により、一人ひとりの要望に沿った支援に努めている。また、個別での温泉入浴や買い物、空家となっている自宅の除草や掃除など、希望に添って支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員で記入する「気づきシート」と「課題分析」に基づき、月例会議で話し合い介護計画を作成している。家族には介護計画2部を送り・説明・話し合いのうえ、その1部に署名捺印を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	「気づきシート」と「課題分析」をもとに月例会議で前回の介護計画の振り返りを行い、6ヶ月毎に定期見直しをしている。また、退院時や身体状況に変化があった時は、その都度現状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や理美容院への送迎、自宅訪問や個人の買い物、高山温泉の入浴やデイサービスの岩風呂入浴など、本人の希望や家族の状況に応じ柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医の受診には職員が付き添い、バイタルチェック表を持参している。ホームの協力医は、月2回往診をしている。受診状況等は、毎月の利用料請求書に同封する「お便り」で知らせると共に、急変時等の受診は電話で報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化し点滴等の医療行為を伴う場合は、入院対応としている。そうでない場合は、家族の意向に基づき医師の指導のもとで出来る限り事業所での支援を行うこととしている。また、急変時の救急搬送先等の対応に関する意向確認書を、家族と取り交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関するマニュアルを全職員に配布し、職員はトイレ誘導の声かけに気を配ったり、入室の際はノックして声かけを行う等をしている。また、個人記録等は、鍵の掛かるロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の経歴や趣味に沿った会話を楽しみつつ、職員は「気づきシート」に入居者の意向等を記載し、1対1での温泉入浴や買い物・自宅訪問を支援したり、夕食後や夜間入浴に対応するなど、一人ひとりの思いやペースを大切に支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を取り入れた調理を行っている。また、家庭菜園で収穫した新鮮野菜を食卓に上げている。うどんを打ち、盛り付けをしたり、配膳や下膳、食器洗い等をしたり、「男子厨房に入るべからず」と言って男性職員に調理を代わる入居者もおり、食事の一時を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日や時間を決めず、夕食後や夜間に入浴したり、気の合う人同士で大浴場の岩風呂に入浴したりしている。時には全入居者で高山温泉の入浴を楽しんでいる。また、入浴の少ない人には24時間チェック表で確認し、入浴誘導の声かけを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園の栽培管理や収穫を楽しんだり、食事の準備や後片付け・居室やホールの掃除等の家事全般を行ったり、うさぎの餌とりをしたり等、入居者それぞれが役割を担っている。また、「行動計画書」を作成し、初市等の季節毎の市に伴ない歩行者天国を歩いたり、花見やドライブを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2日に1回の食材の買い物、一人ひとりの希望に添い1対1での買い物や温泉入浴、暑い日も寒い日も近くの公園等を散歩し季節の移り変わりを体感できる支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所は2階と3階にあり、各階のエレベーターは暗証番号で稼動するようになっており、操作盤に暗証番号が表示されている。	○	入居者の安全を確保しつつ、エレベーターを自由に利用できる工夫をされるよう期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルは全職員が所持し、避難経路や避難場所を指定している。年2回の消火避難訓練のうち1回は、消防署の指導の下に夜間を想定した避難訓練を行っている。また、災害時や行方不明者の捜索協力依頼を、運営推進会議で区長や老人会代表者に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は食後に記録し、肉や魚に偏らないよう栄養バランスに配慮した調理を行っている。食事摂取量は24時間チェック表に摂取割合を記録し、水分摂取状況は10時の欄に「茶」・15時の欄に「コーヒー」等を記録している。	○	24時間チェック表を活用し、水分摂取量を記録されるよう期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に畳コーナーを設け、冬は炬燵を置き皆が集ったり、横になって休めるようにしている。加湿器が随所で作動し、浴室や洗面所は清潔に保たれている。眺望の良い2階ユニットの広々としたテラスでは、3階ユニットの入居者と共に、冬は日光浴、夏はブルーシートを頭上に掛けて日陰を作り、バーベキューや流しそうめんを楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ダンス・鏡台等の家具類やテレビ・鉢植えの植物等が持ちこまれ、行事の写真や塗り絵が飾られている。総ての居室に加湿器が置かれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。		